（ボクらがこしらえた巣箱が校舎の中庭にもあり、かわいい小鳥が出たり入たりする。）

現地ルポ

愛鳥は巣をもらった

★

球磨郡湯前中学校の愛鳥施設をたずねる

新緑のかがやきとゝもに今年もバード・ウィーク（愛鳥週間）がやつてきた。バード・ウィークといえばバタ臭いが、いつまでも舶来品あつかいにせず、もう私たちの生活に日常化してよいころだ。現に球麻郡湯前中学では、生徒たちの血にまでとけこんでいる。その愛すべき記録をこゝに紹介しよう。

何がそうさせたか……■

湯前町は上球磨でも宮崎県境の山つき総面積の七六％が山林で、林業の収入は町経済の生命線ともいえるところ、したがって先祖伝来山林への関心は格別である。

ところが先の戦争で乱伐がつゞき、野鳥の生息地は年々にへる一方、彼等の命をおびやかすホリドールその他の農薬や空気銃の増加がこれに拍車を加え、スギタマバエ、クリタマバチ、マツクイムシなどの害虫が急激に繁殖して、山林は益々荒廃してきた。

町では昭和二十四年以来、第一次、第二次の造林五カ年計画を立て、必死にその対策を講じて来たが、これと呼応して湯前中学では植林教育に精魂をかたむけ学校造林につとめるとともに、林木の愛育に切りはなせない愛鳥運動にのりだしたというわけ。

すなわちこの野鳥保護は切実な生活問題に直接つながっているために力強いともいえよう。

こうした空気の中で、たまたま職業家庭科担当の吉川愛（ちかし）教諭が着任した。熊農出身で斯道のベテラン、戦時中青年教育に精進、戦後は七年の追放苦をなめたが、二十七年五木中学に復活、廿八年熊大の水野武夫教授の下に一年間の内地留学を続け、廿九年現職にいたったもの。

なぜ愛護すべきか……■

なぜ野鳥を保護しなくてはならぬか、ということに十分の理解をもたせることが先決であった。

生餌だけ食う鳥ならともかく、雀みたいに穀物を荒す害鳥は捕える方が本筋ではないかという理屈はある。しかし吉川先生にいわせると集団でない限りそれほどの心配はなく、一方害虫や雑草の実もついばむからやはり天敵として愛護すべきだとという。いわんやいわゆる益鳥においておやというわけだ。

クリタマバチ、スギタマバエ、マツクイムシ等々栗の木、杉の木、松の木にとつてこれらの強敵どもがどんなに恐るべきものかは、生徒たちにも身にしみる体験があった。野鳥たちがそれを食いとめてくれるとしたら、これは山林の愛護者、そして人間への協力者ではないか。

よし、やろう！

どんなことをしたか……■

人間の生活を保証するものは衣食住である。野鳥は天然自然衣食にこと欠かぬが、住だけは彼らの労作にまたねばならない。したがってこれに便利なよりどころを与えれば、彼らの生活は大いに助けられ、その繁殖もスムーズに行われる。というわけで、先ず巣箱を与えることが野鳥愛護の第一着手たるべきことはすでに常識であろう。

湯前中でもこの定石どおり巣箱はもちろん巣台などを生徒たちにつくらせた。

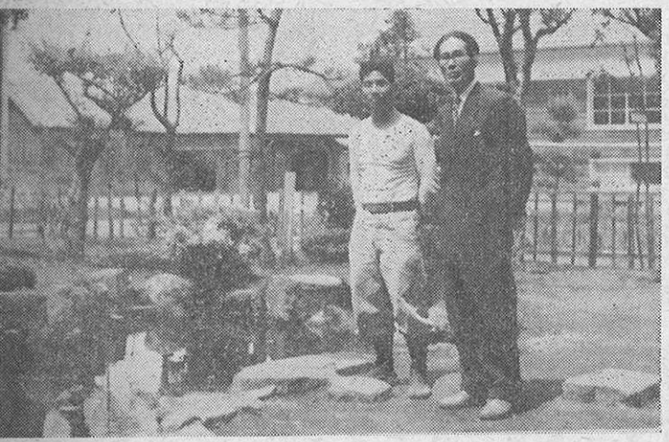
板材は製材所で無数にできる切れっぱしを利用、吉川先生が町の森林組合にかけ合って二千円分の釘を現物支給してもらい、工作の時間や家庭作業でどしどし能率をあげた。

デザインについては一応の指導を与えたが、生徒たちは更に自分の創意工夫で小鳥の喜びそうな文化住宅をつくり上げた。

その結果はどうか……■

昭和三十年から湯前の小中学校と森林組合が共催で、毎年三回（町主催の産業祭と、バード・ウィークと、冬休みの後）巣箱のコンクールを行うが、その時これらの製作品は一括出品されて出来栄えを競う。ここで相互の作品を比較してよりよきデザインを研究するわけだが、何しろ小鳥の家だから、小鳥自身が最後の評価者だ。

コンクールがすむと作品は夫々の生徒に返され、今度は実地に各部落の山林に設置されるが、野鳥たちはめいめい好みの巣箱を選んで新しいスィート・ホームをつくる。生徒たちは胸をおどらせてその入居者たちのたのしい家庭生活に観察の眼を放さず、時折に記録をとって彼らの生態に親しみ、彼らの活動によって山の木たちが害虫から守られて、すくすくと伸びていくのに心からの喜びを感じる。



リーダーの吉川先生（向つて左）……★

ズラリ表彰状の列……■

こうした努力は湯前中学の学校植林四カ年計画の重要な一環として続けられ、着々その実を結んできたが、一方その成果に対しては各方面から相次いで表彰の栄誉がもたらされた。

学校の廊下にズラリ幾十枚と並んだ表彰状は、スポーツ関係のそれとともに、植林や愛鳥に関するものが最も多い。

校長室に入ると、これもスポーツの優勝カップや優勝旗とともに、緑化推進委、文部省、県など各方面から贈られた掛時計、額面、花瓶たのが愛林愛鳥の功績を物語っている。その内容は下刈コンクール、環境緑化、巣箱コンクール等々。昨年五月十日のバード・デイに農林大臣から贈られた表彰状には

野生鳥類の保護について生徒の思想涵養に努め　云々

と記されているが、吉川先生自身も昨年の行幸啓当時、阿蘇の植樹大会で功労賞を贈られたのだった。

（広報課）

五月のラジオ番組

みんなで県関係放送をきゝましょう

RKK県庁アワー

（后・七、一五―七、三〇）

12日（土）新しき空と土を求めて
19日（火）最近の県政の話題から
26日（火）特産〝肥後のあか牛〟

NHK熊本のみなさんへ

（前・七、二〇―七、三五）

9日（土）無煙炭地帯を行く
11日（月）カマドから機械化まで
12日（火）車につた無法者
13日（水）アユ解禁
15日（金）昭和の国土つくり
16日（土）部落にできた保育所
18日（月）金魚という特産品
19日（火）道徳教育の歩み
20日（水）県政界うらばなし
22日（金）他県にさらわれる金ヅル
23日（土）海のギャングを追って
25日（月）ぼくは中学民生委員
26日（火）学生のみた選挙運動
27日（水）あか牛のセリ市
28日（木）最近の県政から
30日（土）山の国民宿舎

NHK生活の手帳

（前・九、四五―九、五〇）

9日（土）明日から愛鳥週間です
11日（月）狂犬病の予防法
12日（火）家庭看護の知識
14日（木）ナマで食べるにはきれいな野菜を
22日（金）雨期にそなえて
29日（金）国民年金のあらまし
30日（土）農繁期の妊婦の食事